

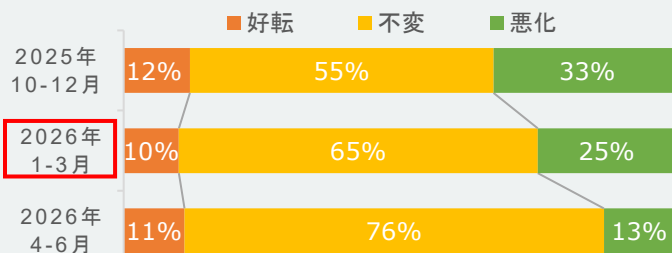
川崎商工会議所 中小企業景況調査 2026年1~3月期 調査結果

●調査対象 川崎商工会議所会員 80事業所 ●調査時期 2026年2月6日~3月4日

1 業況について

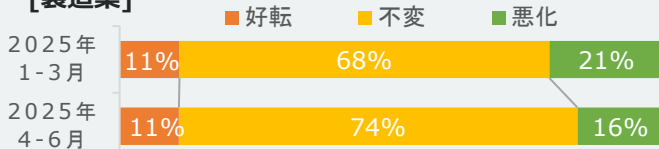
◆今期（1~3月）は「不変」が増加し、「好転」と「悪化」がやや減少した。「好転」は多くの業種で1割程度に留まり、建設業では0であった。「悪化」は製造業、小売業、サービス業で2割、建設業と卸売業では3割にのぼっている。全体としては「不変」が大勢を占めるものの、「悪化」が2割超を占めており、業況の厳しさがうかがえる。

◆来期（4~6月）の見通しは、全体として「悪化」が1割程度減少しており、やや改善の兆しが見られる。特に建設業と小売業では「悪化」が2割減少している。全業種の中で卸売業で「好転」が1割程度増加している一方で、その他の業種では横ばいもしくは微減となっており、来期も慎重な見方が大勢を占めている。

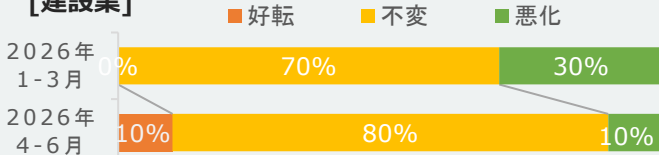


■業種別

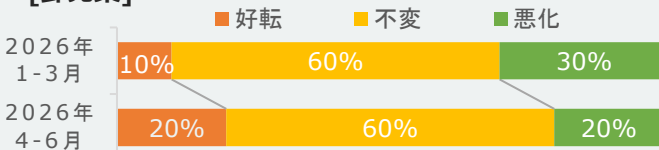
【製造業】



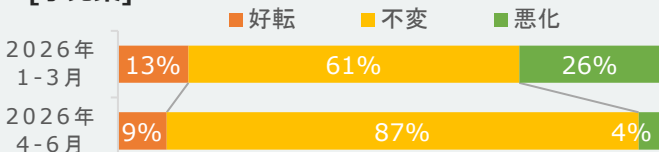
【建設業】



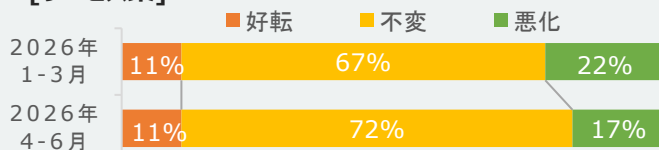
【卸売業】



【小売業】



【サービス業】



2 設備投資について

[今期（2026年1月~3月）]

実施した：2.5% 実施していない：97.5%

<実施内容>



[来期（2026年4月~6月）]

計画している：5% 計画していない：95%

<計画内容>



3 経営上の問題点 [複数回答]

- ◆全ての業種で、「仕入価格の上昇」「原材料価格の上昇」といったコスト面の課題を上位に挙げている。特に建設業では5割超の企業が問題と回答している。
- ◆製造業および小売業では、物価上昇や消費者マインドの低迷の影響を背景に、「需要の停滞」を最大の課題として挙げている。

【製造業】

1位	需要の停滞	42%
2位	原材料価格の上昇	32%
3位	人件費の増加/原材料費・人件費街の経費増加/製品(加工)単価の低下・上昇難/従業員の確保難	21%

【建設業】

1位	材料価格の上昇	55%
2位	材料費・人件費以外の経費の増加	27%
3位	請負単価の低下・上昇難/熟練技術者の確保難/民間需要の停滞/その他	18%

【卸売業】

1位	仕入単価の上昇	40%
2位	人件費以外の経費の増加/需要の停滞/その他	20%
3位	商品在庫の過剰/人件費の増加/販売単価の低下・上昇難	10%

【小売業】

1位	需要の停滞	55%
2位	消費者ニーズの変化への対応	45%
3位	仕入単価の上昇	41%

【サービス業】

1位	材料等仕入単価の上昇	44%
2位	人件費の増加	39%
3位	従業員の確保難	33%